
僕の気持ちを伝えたい ～僕の気持ちよ伝わって～

HERON

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の気持ちを伝えたい　　く僕の気持ちよ伝わってく

【Nコード】

N2798G

【作者名】

HERON

【あらすじ】

僕の気持ちを伝えたい。僕の気持ちよ伝わって……自分の気持ちを知ってもらいたいから……

コロ。いや、それはもう前の名前。

「わん！ わん……！ わん！！」

コロは捨てられた。飼い主は男性と結婚。その時に、飼い主が男性の家で住むことに。

だが、不幸にも犬が苦手な男性。飼い主は男性を選ぶ。

ペットを捨てる行為は、一種の殺人行為。命を奪うものだ。しかし、どうしてもその行為を実行しなければならないケースがある。それが今。

そういうときに飼い主は悲しむものだ。ペットと過ごしたこれまでの時間が頭の中に甦る。聞こえるはずもないのにペットの「捨てないで……」という声が脳内で流れる。

だが、この飼い主はそうではなかった。涙一つ流さずに、置いてあった適当なダンボールに『拾ってあげてください。名前はそちらで決めていただいて結構です』と書き、そのダンボールにコロを入れると、近くの公園の隅の方に置く。そして、男性と笑顔で去っていく。

なんというひどい話であろう。コロは捨てられたのだ。

飼い主にコロとの思い出はなかったのであろうか。それともコロが、飼い主と同じくらいひどい犬だったのであるか。いや、そうじゃない。コロは愛嬌あござうたっぷりの犬だ。

いつだって飼い主の側にいた。疲れているときは精一杯癒そうと努力した。コロだって飼い主にたくさん遊んでもらった。思い出は

たくさんあったつもりだ。だが、そんなコロの気持ちは飼い主に届くことは無かった。無情だが、それが全てだ。

捨てられたコロは孤独で寂しかった。

寂しくて「ワン！」と鳴くことも無かった。孤独は全然思い出に残らない。

「わあ。ワンちゃんだ！　こんな可愛いワンちゃんを捨てるなんてひどい人もいるよねえ」

でも、たまに自分を見に来てくれる人がいた。この時はとても嬉しかった。

この時ばかりは「ワン！」と鳴いた。孤独のせいで鳴けなかった声をドンドンだした。

しかし、そんな嬉しい時間には終わりが来る。

中々、連れて帰ってくれる人などいない。

また孤独になったコロに、更なる困難が襲い掛かる。

天から降り注ぐ水のシャワー。いつもは気持ちいいはずの水も、今となっては冷たいだけだ。

そして、その冷たさは確実にコロの体力を奪う。

寒い……冷たい……誰か……誰か……コロはそんな気持ちでシャワーに打たれ続ける。

そんなコロにも限界がくる。眠いのだ。眠くも無いのに体が眠いと言っている。寝ちゃ駄目だと分かってるのに寝ちゃう。寝ちゃ駄目だ。でも……

そんな時、寒くて眠ってしまいそうなコロの下に、傘を差した一人の女性が現れる。

こんな運命的な展開はあっていいのだろうか。いや、いいのだ。あるからこそ運命的な展開なのだ。

「大変！ このままじゃ死んじゃうわ！」

傘を差した女性は、持っている傘を投げ捨て、コロを両手で包み込み、走る。

コロを両手で包み込む女性はとても温かくて、眠くて瞳を閉じてしまうとか。そんなことはどうでもよくて、それくらい気持ちよくて……コロは眠った。女性の温かい両手の中で眠りについた。

しばらくして目を覚ましたコロ。

キョロキョロと辺りを見渡した所、自分以外に気配が無い。きつとまた一人なんだろう。

でも、その場所は公園ではない。コロは覚えている。ここは、飼い主が住んでいた場所と似ているのだ。見た目は全然違うが、雰囲気似ているのだ。

それに安心したのか、コロはなんだかトイレがしたくなってきた。しかし、どこですればいいのか分からない。コロは知っている。こういう場所では決められた場所でトイレをしなければならぬ。だが、分からないものを見つけるのは無理な話。コロはやってしまった……

やってしまったことにシュンとするコロ。

しばらくして、ドアが開く音がした。そこでコロが眼にしたのは、あの時、自分を救ってくれた女性だった。

救ってくれた女性の前でやってしまったことに、コロはまたシュンとなった。そして反省した。でも……

「ごめんねー！ 私、トイレする場所用意しとかなかったね。ちゃんと用意しとくから、安心してね」

そう言ってくれた女性に対し、コロはずっと目を離さなかった。そして、この日は女性と一緒に寝た。やっぱり女性は温かった。

次の日。コロは女性に名前をつけてもらうこととなった。

そうだ。女性はコロという名前を知らない。飼い主が書いていかなかったから知らないのだ。やっぱり飼い主はヒドい。

女性から発せられる言葉。その言葉でコロはコロではなくなる。そして女性は……

「君の名前はラッキー！ これに決まり！」

飼い主となる。そして、コロはもうコロではない。ラッキーだ！

「わん！！」

コロ……いや、ラッキーは飼い主に対し、一つ鳴く。これは、納得の「わん」である。

ちなみに、飼い主が名前をラッキーにした理由は簡単なもので、雨に打たれて死にそうだったラッキーを自分が見つけて拾ってこれたからだそうだ。そのまんまである。

それから、ラッキーと飼い主は楽しく暮らした。

暮らしている間には色々なことがあった。

一番の出来事は、飼い主が結婚した。

ラッキーは、あのときの出来事を思い出す。前の飼い主は結婚が原因で自分を捨てた。

飼い主も同じように捨てないだろうか。不安な気持ちで一杯になった。

しかも……

「ごめん。俺は犬が苦手なんだよ……」

飼い主の結婚相手は犬が苦手ときている。ラッキーは覚悟を決めた。ここで捨てられるなら仕方ない。死に掛けていた自分を拾ってくれた飼い主だ。捨てられても感謝しなければならない。

「だから捨てろって言うの？ 死に掛けてたんだよ？ ラッキーは捨てられて死に掛けてたんだよ！？ 自分が苦手だからって捨てていいの？ いいわけない。一回、ちゃんとラッキーと触れ合ってみてよ。絶対に気に入るよ。楽しいし癒される。少なくとも私はそうだった。そんな楽しくて癒される思い出をくれたラッキーを私は捨てることなんて出来ないよ。絶対に出来ない」

「……ごめん……俺が悪かったよ」

もう大人なのに、大粒の涙を流しながら結婚相手に訴えかける飼い主。

そんな飼い主に心を打たれた結婚相手。事実、ラッキーと結婚相手は、今も仲良く暮らしている。

しかしこのとき、ラッキーの中である感情が生まれる。

まだこの時は胸が熱いと思う程度だったが、それから生活が続ける中、遂に今日、この瞬間。自分の中でうごめいていた感情が爆発した。

ラッキーは気づいた。自分の心の中でうごめく感情の正体は愛だったのだ！

そうなるともう止められない。一度思い始めると止まらないのは人間も犬も同じ。だが、ラッキーは知っている。もう、自分の愛は実らぬことを。だが、ラッキーは伝えたかったのだ。自分の気持ちを、飼い主に知ってもらいたかったのだ……勝負は次のご飯の時間。そこが勝負。

飼い主がラッキーにご飯をあげようとドアを開く。

勝負のときが近づく。なぜだろう。ただのご飯の時間なのに、凄く緊張する。時間がゆっくりに感じる。自分でも声が震えそうになっているのに気づく……でも、逃げてはいけない。勝負はこの時！

「わん！！ わんわんわん。わん。わ……わん。わん！ わ、わん！ わん！！！！」

ラッキーは自分の伝えたい全てを伝えた。
だが……

「はいはい！ 今、ご飯をあげますよ。せかさずに待ちなさいラッキー！」

残念ながら飼い主に伝わることは無かった。

ラッキーはこの時ほど、自分の言葉が通じないことを恨んだ。

僕の気持ちを飼い主に伝えたい。僕の気持ちよ伝わって……

でも、これは仕方の無いことなのだ。
通じない言葉を通じるようにする魔法などない。

……それでもラッキーは幸せだった。確かにラッキーは気持ちを伝えることは出来なかった。でも、愛という感情を持つことが出来たのだ。そんな飼い主に出会えて……一緒に暮らすことが出来て……それによって飼い主が喜んでくれて……とても幸せだ。

だからこそ！

神様。どうかラッキーにチャンスを。ラッキーはこれからも飼い主と共に生きていきます。飼い主を楽しく癒して生きていきます。そして、いつかは死が訪れることでしょう。その後、ラッキーにチャンスをお与えください。飼い主が生きている間にもう一度、ラッキーに生命を……ラッキーは伝えたいのです。自分の口から……自分を助け続けてくれた飼い主に自分の気持ちを伝えたいのです。そのためには、ラッキーは人間に生まれる必要があるのです。

神様。どうかラッキーにチャンスをお与えください……

（後書き）

中盤から展開が走りすぎた感じがありますが、自分的には久しぶりに、純粋な作品を作れたと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2798g/>

僕の気持ちを伝えたい ～僕の気持ちよ伝わって～

2010年10月28日00時48分発行